

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370360

研究課題名(和文) 第一次世界大戦後の仏語版国際文芸誌 「新フランス評論」誌との関係を中心に

研究課題名(英文) Study on the international literary magazines published in French after the World War I and their relations with "La Nouvelle Revue Francaise"

研究代表者

吉井 亮雄 (YOSHII, AKIO)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：40200927

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：過去3年間の主要な成果としては次の2点がある。ひとつは、第一次世界大戦後に発行された仏語版国際文芸誌のうち敗戦国ドイツにたいし対照的な態度を示した「ル・モンド・ヌーヴォー」と「エシャンジュ」を主要な対象として、「新フランス評論」誌との関係を軸に同時代の文学環境にかんし具体的な知見を深めたこと。第二に、大戦前に発行された2つの雑誌「ラ・ファランジュ」と「ロクシダン」を調査し、それらの総合索引を作成したことである(前者の索引は2014年にフランスで公開した)。

研究成果の概要(英文)：Our research over the last three years has produced two major results. Firstly, a substantial investigation of two international literary magazines published in French after World War I (and which took contrasting stances on Germany) - "Le Monde Nouveau" and "Echanges" - and of their relations with "La Nouvelle Revue Francaise". Secondly, the creation of complete indexes of two important periodicals published until just before the beginning of the Great War: "La Phalange" and "L'Occident". (The index of the former was published in 2014.)

研究分野：仏文学

キーワード：仏文学 新フランス評論 文学史 文芸誌 第一次世界大戦

1. 研究開始当初の背景

申請者は、科学研究費補助金による3つの先行研究「初期『新フランス評論』誌とフランス語圏ベルギー文学」(平成16-18年度、課題番号16520162)、「初期『新フランス評論』誌と同時代文芸誌」(平成19-21年度、課題番号19520239)および「初期『新フランス評論』誌と同時代の象徴主義文芸誌」(平成22-24年度、課題番号22520318)をつうじて、未刊書簡をはじめとする多数の文献や資料を渉猟し、これによって20世紀初頭フランスの文学環境に関する実証的知見を深めた。とりわけアンドレ・ジッドらが1909年に創刊した「新フランス評論」誌とその周辺は一貫して主要な研究対象であった。

上記の実証的蓄積をつうじて「新フランス評論」誌創刊前後のフランス国内外の文学的交流の重要性を強く認識したことが本研究課題の着想源となっている。周知のように「新フランス評論」が編集の2大方針としたのは、党派性の排除と、外国文学の積極的な受容・紹介であった。第一次大戦後ドイツの作家らに寄稿を促したのもそれゆえである。だがたとえば、かつて象徴主義誌「詩と散文」を主宰したポール・フォールが文学部門の編集を担当した月刊誌「ル・モンド・ヌーヴォー」(1919年創刊)は、「同盟国間の国際雑誌」という語義矛盾ともとれる副題を冠し、当初からドイツ排除を明確に打ち出していた。これら国際文芸誌に共通して認められるのは、親独・反独の如何にかかわらず、1920年代に入ると急速に政治色を強めてゆく点である。本研究の目的は、文学的理念と政治的現実との乖離により変容を余儀なくされた諸誌の具体相を実証的に考究し、あわせて「新フランス評論」の場合はいかにして既定方針を堅持し新たな発展・拡大期を迎え得たのかを探ることにある。

2. 研究の目的

第一次大戦はヨーロッパ諸国の文化的共同性を大きく損ねたが、戦後は早速、これを再建ないし改変しようとする種々の試みが始まった。そのひとつとして仏・英では、両国やアメリカなど同盟国による仏語版や英語版の「国際文芸誌」(ここでは複数国のメンバーが共同で運営・編集した文芸誌の謂)がいくつか創刊されている。当該各誌は、戦勝国側が決定権を握る点では共通するものの、上述のように、編集方針においては大きく2つに分かれた。すなわちドイツと協調するか、あるいはこれを排除するか。戦後復刊された「新フランス評論」誌は一貫して前者に同調する姿勢をとったが、本研究の目的は、同誌と仏語版国際文芸誌との関わりを文学・政治の両レベルから実証的に考究することにある。

大戦後創刊のいくつかの仏語版国際文芸誌と、同時期フランス第一の文芸誌に成長し

た「新フランス評論」との関係を経済的に論じた研究はこれまで皆無であった。それゆえ本研究は20世紀文学史の一側面に照明を当てる貴重な貢献となる。また従来にもまして「相互的メディア交流」の重要性が指摘される今日、ひとり雑誌編集の実態解明にとどまらず、文学と政治の関わりを探る手立てとしても本研究の意義は大きい。

申請者は近年では、仏・英の共同研究グループが作成したジッド『法王庁の抜け穴』生成批評版(ガリマール社・シェフィールド大学共同出版)の校閲を担当、また斯界の権威クロード・マルタン国際アンドレ・ジッド学会名誉会長と共同で『ジッド研究書誌(1918-2008年)』(ジッド研究センター)を作成するなど、海外との情報交換・共同研究も積極的におこなってきた。さらに2012年には『アンドレ・ジッド=ポール・フォール往復書簡集』の校訂版を、2014年には『ラ・ファランジュ』誌総合索引』をフランスで公開し高い評価をえた。19世紀末から20世紀初頭・第一次大戦後にかけて成立した新たな文学環境の総体的把握という大きな観点に立てば、本研究は個別的雑誌研究であると同時に、現在フランスをはじめ欧米諸国で進行中の他の文学史研究との相互的関連においても独自の貢献をなすと思われる。

3. 研究の方法

本研究課題が対象とする時期(問題の徒な拡散と調査・探索の不徹底を防ぐ意味で、一応の区切りとして大戦終結から1930年代半ばまで)に刊行され、かつ「新フランス評論」グループと何らかの関わりがあった文芸誌については、すでに作成していた予備的なリストにしたがって資料体の充実を図りつつ、実地の調査をおこなった。とりわけ集中的な考察対象とした2誌「ル・モンド・ヌーヴォー」(ドイツ排除)、「エシャンジュ」(ドイツ受容)については、冊子体およびフォトコピーのかたちで全号を入手・通覧し、基本的な索引を作成した。

国内では入手難の関連雑誌類の参照と並んで、未刊行の文献や資料(特にジッドと同時代作家・文学者たちが交わした書簡)の閲覧・筆写のため、数回にわたりフランスでの現地調査をおこなった。主要な訪問機関はパリ大学附属ジャック・ドゥーセ文庫とフランス国立図書館の2カ所であったが、数件の私的コレクションの調査もおこなった。

ちなみに公的所蔵機関のうち、ドゥーセ文庫の場合、閲覧規則がきわめて厳格に定められており、書簡類に関しては差出人(あるいはその遺産相続人)の許可が必要とされるが、事前の探索・調査によってこれを首尾よく取得し、現地での無用な時間的ロスを防ぐように努めた。

また記載テキストの精確な筆写は時間のかかる作業であるが、できるだけ効率的にこ

れを進めつつ、必要に応じ、すでに親交を結んでいるフランス人研究者・図書館司書に解読・筆写の協力を仰いだ(ただしその場合、協力は個人的な友誼にもとづくものであり、すべて無償である)。

4. 研究成果

上述のように、本研究課題は先行課題の成果を基盤にすえつつ、対象時期を第一次大戦後に移し、さらに大きな射程のなかでの展開を試みたものである。

先行課題からの継続的な成果としては、特に「ラ・ファランジュ」誌に集った作家・批評家に関する実証的調査に力を注ぎ、その具体的な成果として同誌の総合索引を前出のクロード・マルタン氏と共同で作成、2014年にジッド研究センターより公刊した(同索引はすでにくつきの専門誌・サイトにおいて論評の対象となり、高い評価をえている)。

本研究課題に直接関連する成果としては1920年代から30年代に発行された2つの仏語版国際文芸誌「ル・モンド・ヌーヴォー」と「エシヤンジュ」を中心に、大戦終結後ドイツの作家・批評家を排除または受容した経緯や編集方針などについて詳細な検討をおこなった。政治によって文学が時として変容せざるをえない様態を実例に即して具体的ななかたちで把握できたことは大きな成果のひとつであった。

また「ラ・ファランジュ」を経て「新フランス評論」で活躍した批評家アルベール・チボーデが当該時期にジッドと交わした『ジッド=チボーデ往復書簡集』の編纂・校訂作業も順調に進んでいる。

研究期間内に、本課題に直接的ないし間接的に関わる学術論文6点、著書1点を公刊し、また2015年にはフランスで開催されたジッド国際学会において組織委員を務めるとともに、研究発表をおこなった(その内容を掲載した報告集は2016年内にクラシック・ガルニエ出版より公刊予定)。当初の研究計画を順調に遂行し、相応の成果をあげたものと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

吉井 亮雄「ジッドとエドゥアール・デュジャルダン」、『ステラ』第33号(査読あり)九州大学フランス語フランス文学研究会、2015年12月、333-360頁。

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/handle/2324/1563579/333-360%20Yoshii-A.pdf>

<http://hdl.handle.net/2324/20567>

吉井 亮雄「『ジッド=フォール往復書簡集』補遺」、『ステラ』第34号(査読あり)

九州大学フランス語フランス文学研究会、2015年12月、361-369頁。

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/handle/2324/1563580/361-369%20Yoshii-B.pdf>

吉井 亮雄「ジッドのアンリ・マシス宛未刊書簡をめぐって」、『ステラ』第33号(査読あり)九州大学フランス語フランス文学研究会、2014年12月、315-328頁。

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/handle/2324/1495155/p315.pdf>

吉井 亮雄「シャンプイオン版『20世紀文芸雑誌事典』、『ステラ』第33号(査読あり)九州大学フランス語フランス文学研究会、2014年12月、329-334頁。

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/handle/2324/1495156/p329.pdf>

吉井 亮雄「ジッドとナチュリスムサン=ジョルジュ・ド・ブーエリエとの往復書簡」、『ステラ』第32号(査読あり)九州大学フランス語フランス文学研究会、2013年12月、221-260頁。

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/handle/2324/1430755/p221.pdf>

吉井 亮雄「ジッドの盛澄華宛書簡」、『ステラ』第32号(査読あり)九州大学フランス語フランス文学研究会、2013年12月、261-282頁。

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/handle/2324/1430756/p261.pdf>

[学会発表](計1件)

Akio YOSHII, « Une analyse textuelle du début et de la fin de *Si le grain ne meurt* », colloque international « Gide, l'identité à l'épreuve de la littérature », Université de Lorraine, Metz (France), 28-30 mai 2015.

[図書](計1件)

Caude MARTIN & Akio YOSHII, *La Phalange. Table et index (1906-1914)*. Saint-Georges-d'Orques : Publications de l'Association des Amis d'André Gide, novembre 2014, 246 pp.

[その他]

ホームページ等

□ <http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/french/>(九州大学仏文学研究室 HP)

□ <http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000093/index.html>(九州大学学術情報リポジトリ、吉井亮雄プロフィールページ)

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉井 亮雄 (YOSHII AKIO)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号： 40200927

(2)研究分担者 / なし

(3)連携研究者 / なし